

今日は今年最後の主日礼拝です。今年 2020 年を振り返りますとコロナ禍で始まり、コロナ禍の収束がないままこの一年が終わろうとしています。礼拝出席が制限され、教会で自由に活動したり交わったりすることが出来なくなりました。昼食もずっとストップしていますし、先週持ちました聖餐式もずいぶん久しぶりのことでした。今まで、あたりまえのようにしていたことが出来ない状態が続きますと出来た時にはことさら感謝の思いが起こってきます。今年は、平穩も安全も、決して当然のことではなく、神の恵みであって、改めて感謝すべきことなのだということを身にしみて感じました。

今日、この礼拝に来ることが出来たということひとつをとってみても、決してあたりまえのことではなく、そこに数多くの神の恵みがあります。まず、朝、元気で起きることができたという健康の恵み、朝の食事をおいしく食べることができた日毎の糧の恵み、ここに教会があって、兄弟姉妹に迎えられた交わりの恵み、賛美を歌うことのできる唇、みことばを聞くことのできる耳、献金をささげることのできた手があることも、恵みです。そして今年はネットを利用した礼拝も可能となりました。神の恵みをひとつ、ひとつ、数えあげていくと、感謝すべきことがなんと多いことかが分かってきます。

今日の詩篇 103 篇は作者ダビデが「主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。」と言ってから「主の良くしてくださったこと」つまり、神の恵みを数えあげています。「主は、あなたのすべての咎を赦し、あなたのすべての病をいやし、あなたのいのちを穴から贖い、あなたに、恵みとあわれみとの冠をかぶらせ、あなたの一生を良いもので満たされる。」(103:3-5)「あなたのすべての病をいやし」とは病気のいやし、健康の恵みのことです。今年、大きな病気をされた方、手術をなさった方も大勢いらっしゃいますが、神がいやしてくださり、こうして元気で共に礼拝を守れることを感謝します。中には「私はなぜひとつひかず、元気に過ごせた」とおっしゃる方もいるでしょう。しかし、病気にならなかったこと自体が、神のいやしの恵みをいただいたしるしなのですから、健康の恵みをもっと感謝しなければならないと思います。

次の「あなたのいのちを穴から贖い」というのは、大きな危険から救い出されたことを言います。もう少しで大きな事故に巻き込まれるところだったけれど、守られたといったことが、今年なかったでしょうか。また、命の危険までいかなくても、仕事をなくしたり、商売がうまく行かなくなったり、家庭にトラブルがあったり、そうした危機的などころから救い出された方もあるのではないのでしょうか。神が私たちに平安と安全を与えてくださることを感謝しましょう。もちろん、未だその渦中にある方もおられるでしょう。それでもどうでしょうか？ じっくりと自分の人生を振り返ってみるならば神様の守りと支えがあったからだと思えるようなことがあるのではないのでしょうか？

その次の「あなたに、恵みとあわれみとの冠をかぶらせ」というのは麗しい表現ですね。これは、私たちが神の愛とあわれみでとりかこまれていることを意味します。日々の生活の中では、思いわずらうことも、悩むこともあるでしょう。試練や誘惑にあい、罪を犯してしまうこともあります。しかし、そんな時でも、神の愛とあわれみが私たちを取り囲んで、私たちの心と思いを守ってくれるのです。今年も、神様は、私たちの霊的必要を満たしてくださいました。そのことに感謝しましょう。

最後の「あなたの一生を良いもので満たされる」というのは、日ごとの必要が満たされることを言っています。毎日、毎日、神が必要を満たしてくださいさなかった時はなかったのではないのでしょうか。私たちの「必要」という場合、私たちが「欲しい」と思っているもの（願望）はすぐには手に入らなかったかもしれませぬ。しかし私が「欲しい」と思っているもの（願望）が、必ずしも、私たちに必要なものとは限

りませんし、もし、願いどおりに与えられたら、かえって、私たちが駄目にしてしまう場合もあるのです。神は、私たちにほんとうに「必要なもの」を良くご存知で、私たちの「必要」は必ず満たされてきたはずで

です。今年も、健康を、安全を、霊的、物質的的祝福を目毎に味わってきました。ほんとうに感謝です。しかし、これらすべてにまさって大きな恵み、祝福があります。神の恵みは数えきれないほどありますが、その中でも特に覚えなければならないもの、最高の恵みは何でしょうか。それは、最初に「主は、あなたのすべての咎を赦し」と言われていた「罪のゆるし」の恵みです。クリスチャンとは、罪のゆるしを体験した人のことで、誰も、救われた時、その恵みを感謝し、喜んだはずで

す。しかし、年月が経つにつれ、罪のゆるしが、あたりまえのようになってしまい、病気のいやしや、特別な能力、不思議な導きなどに目が移ってしまい、罪のゆるしの恵みが私たちにとってどんなに大切なものかを忘れてしまうことがあります。イエスの弟子たちも、そのような失敗をしています。弟子たちはイエスから悪霊を追い出す権威を授けられ、伝道に行きました。弟子たちは、イエスの御名によって力あるわざをし、興奮して帰ってきて、言いました。「主よ。あなたの御名を使うと、悪霊どもでさえ、私たちに服従します。」しかし、イエスは弟子たちにこう言われました。「悪霊どもがあなたがたに服従するからといって、喜んではなりません。ただあなたがたの名が天に書きしるされていることを喜びなさい。」(ルカ 10:17、20) 私たちにとっての最大の恵みは、悪霊を追い出したり、奇蹟を行ったりという、目に見える衝撃的なことよりも、罪がゆるされ、神のものとされたということにあるということ、イエスは弟子たちに教えられたのです。

私たちは、罪のゆるしによってはじめて、神に受け入れられ、神とのまじわりを持つことができます。罪のゆるしがいなければ、他にどんな恵みを受けていても、その恵みは私たちの喜びとなり、力となりません。罪のゆるしがいなければ、どんなに健康であってもその人には神のいのちがなく、どんなに財産があっても、そのひとには平安がないからです。

それでは「罪のゆるし」、この恵みがどんなに大きいものかを考えたいと思います。詩篇 103 篇には、罪のゆるしが次のように描かれています。

最初は 10 節と 11 節です。「私たちの罪にしたがって私たちを扱うことをせず、私たちの咎にしたがって私たちに報いることもない。天が地上はるかに高いように、御恵みは、主を恐れる者の上に大きい。」神が私たちの罪や咎にしたがって私たちを扱われたら、私たちはどうなるのでしょうか。厳しい罰を受けて当然でしょうね。神は、きよく、正しい神であって「私たちの罪にしたがって私たちを扱い、私たちの咎にしたがって私たちに報いる」お方のはずです。ところが、神は、私たちが正しい者とみなして、私たちに罪の罰、咎の報いを要求なさらない、これが罪のゆるしです。

「天が地上はるかに高いように、御恵みは、主を恐れる者の上に大きい。」神はきよいお方で天におられ、私たちは罪を持って地にいます。「天と地」は、しばしば、かけ離れたふたつのものを表わす時に使う表現です。「天と地ほど離れている」と言いますね。ところが、ここでは、神の愛の大きさを表わすのに、この言葉が使われています。罪のゆるしは、天よりも高く、大きな神の愛を私たちのものにするのです。きよい神と罪ある私たちが、たとえ天と地ほど離れていたとしても、罪のゆるしは、この溝を埋め、神と私たちとをひとつにするのです。

次に 12 節では「東が西から遠く離れているように、私たちのそむきの罪を私たちから遠く離される。」と言っています。神は、私たちから罪を引き離し、その罪を永久に私たちから引き離されるのです。たとえ誰が私たちを責めたとしても、神は「この者は、この罪と何の関係もない」と宣言してくださるので

す。ミカ書 7:19 に「私たちをあわれみ、私たちの咎を踏みつけて、すべての罪を海の深みに投げ入れてください。」とあります。「咎を踏みつけて」というのは、神が憎しみをこめて罪を打ち砕き、それを力のないものにされるという意味です。「海の深みに投げ入れる」というのは、それが二度と姿をあらわすことがない、完全に葬り去られるということを意味しています。神はその大きな愛によって、罪人を愛してくださいましたが、罪を憎んでくださったのです。「東が西から遠く離れているように」また「海の深みに投げ入れる」といった言葉は、神の罪のゆるしが徹底していることを表わしています。

罪のゆるしが徹底していることを表わす聖書のことばを、もうひとつ見ておきましょう。それはイザヤ 43:25 です。「わたし、このわたしは、わたし自身のためにあなたのそむきの罪をぬぐい去り、もうあなたの罪を思い出さない。」よく「ゆるすことは忘れること」と言われます。私たちの場合は、人の罪をゆるしても、なかなかそれを忘れることはできないものです。ゆるしたはずなのに過去のことが心によみがってくることがあります。しかし、主のゆるしは違います。主が私たちの罪をゆるすと言われる時、私たちの罪をも忘れてくださるのです。「わたし、このわたしは、わたし自身のためにあなたのそむきの罪をぬぐい去り、もうあなたの罪を思い出さない。」(イザヤ 43:25) あなたのために罪を拭いさるし、私のためにも拭いさるとおっしゃっています。これは一旦あなたが罪を認めて悔い改めたならもう二度と神はその罪を思い出したり、交わりの中に持ち出したりはしないということです。神が私たちにくださる罪のゆるしは完全で、徹底した罪のゆるしなのです。

目に見えるさまざまな祝福の多くは、一般恩寵に属します。「一般恩寵」というのは、創造者である神が被造物にくださる恵みのことです。それは、神を信じるか信じないかにかかわらず、すべての人に分け与えられるものです。イエスが『天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださるからです。』(マタイ 5:45) と言われるような恵みです。

しかし、罪のゆるしは、キリストを信じる者に与えられる特別な恵み、特別恩寵です。富や健康、能力や善良さ、そうしたものは誰の目にも見えるもので、私たちも、そうした恵みはすぐ見え、それを感謝することができるのですが、「罪のゆるし」という恵みは、人の目には隠れており、それを見逃したり、感謝を忘れてしまいがちです。一般恩寵は神の創造の力によって私たちに与えられますが、罪のゆるしという特別恩寵は、イエス・キリストの十字架を通して私たちに与えられ、信仰によってしか受け取ることでできないものです。罪のゆるしは、神の御子が、その命をもって勝ち取ってくださったもので、それほど価値のある、まさに特別な恵みです。今年は何と何日かありますがもう一度「罪のゆるし」という最大の恵みをしっかりと心に覚えたいと思います。もし「罪の赦し」ということにピンと来ない方がおられたらこのように考えたいと思います。あなたは今年、どれぐらい神の前に悔い改めましたか？つまり罪の悔い改めがあって、あるいはその前の自分自身の罪への自覚があって初めて赦されるということが意味を持ちます。罪の自覚のない者にとって赦しは意味を持ちません。さらに悔い改めるということもただ自分を責め続けていることに終始しているようなことはないでしょうか？自分を責め、反省を繰り返していても罪の赦しを体験することは出来ません。なぜなら反省は神様を抜きにしても出来ることだからです。また罪に対して妙に居直っているということはないでしょうか？それではやはり赦しを体験することは難しいと思います。神様はそんなことを願ってはおられません。罪深く、弱く、足りない者であることを自覚している、この自分を神様は価値ある者として尊んでくださり、ありのままの自分として神と共に歩むことが喜びである。それが罪赦された者の姿です。この最高の恵みに最大の感謝をささげたいと思います。今年を振り返り、主の良くしてくださったことに思いを馳せましょう。祈ります。